
パーフェクト・ゲーム

タンポポ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

パーフェクト・ゲーム

【Zコード】

Z6675A

【作者名】

タンポポ

【あらすじ】

弱小野球チームのピッチャーが強豪チーム相手に完全試合をやると言い出した！これを読んで夢や希望を持つ人がいれば光栄に思います。

『…決めた！完全試合をやる…』

彼の一言で笑い声が上がる。彼の名前は赤沢あかざわ翔太野球部のエースピッチャーである。

エースとは名ばかりか、部員は総員二十一人、三年生が十一人、一・二年生合わせて十人。部員はまともに練習もせず、試合では一度も勝つた事がなかった。

後輩はメガホンで応援しかできない。どんなに実力があつても先輩優先なのだ。

そのため、後輩もやる気がなく、チーム全体が駄目になっていた。

しかも今日の試合は強豪、南大中学校とやるのだ。敗北は決まった様なものだ。

『無理無理…お前ができるもんか』

キャッチャーである吉木よしき大吾だいごが言った。

本来バツテリーはお互いが信頼しあうものだが、あいにく我がチームに希望だの夢といつ言葉はない。

『やる…。今日はやる…』

笑い声など気にしないで翔太は大きな夢を抱いた。

何故か、俺は笑う事ができなかつた。

そして試合が始まつた。俺達は先攻だ。しかし、あつせり二三者凡退。
そして攻守が入れ代わり守りにつく。

翔太はやけに自信がありそうに小さいけど、高じマウンドにのぼつ
た。

『見てろー！南大！！お前達に完全試合をやってやるー。』

大声をあげた翔太。

「なめるなよ、できるわけねえだろ！」

「できるものならやつてみやがれ！」

次々と罵声が飛んでくる。周りのギャラリー全員が敵になつていた。

俺だつて…できないと思つぜ…？完全試合なんてピッチャーなら誰
でも一度は夢見るんだ。

でも、すぐに現実に引き戻される…この俺がそつだつた様に。

…でもな、俺達に翔太を馬鹿にする権利はない。人を馬鹿にするつ
て事は、そいつよりも自分が優れているつて事だろ？

夢すら見れない俺達が、必死で夢を追う奴の邪魔はしちゃいけないんだ。

南大中のトップバッターが打席に入る。

「フッ……やけに自信ありそудだな……そういうのを自信過剰って言うんだぜ？」

『自信過剰……？じやあ、自分に自信を持つちゃ いけないとでも言うのかい？』

その通りだ翔太！俺達に足りないのは自信だ！…やつと気付いたぜ。

『ストライク！バッターアウト！チエンジ』

…え？三者三振？？

ざわめくグラウンド。

あの翔太が？

南大中はあきらかに動搖している。…チャンスだ！

俺は四番バッターの為、この回の先頭打者だった。

完全試合は翔太一人じゃ 駄目だ。チームで一丸とならなきゃ…。

『予告… ホームラン予告だ！』

俺はバットを高々とかかげた。

「弱小チームが…なめるなよ！」

しめた！挑発にのつて肩に力が入れば球に重みがなくなる。それに
たいていはストレートだ。

俺は真ん中高めの棒球を力いっぱい打った。

カツキーネン

ボールを場外まで運ぶ大ホームラン！

このホームランには意味がある。

どうやら早速効いたみたいだな。

『…おい、勝つぞ』

『…ああ、点を取ったのなんか久しぶりだしな』

『…翔太、次の回からは打たせろよ。絶対守るからな』

俺のホームランでチームがまとまつたのだ。

一人のエラーが夢を碎いてしまう事を胸に刻んで…守つてみせるか
ら…信じて投げろよ、翔太。

誰かがもしエラーをしたら…

『今までができすぎた』

なんて笑って涙をこまかすだろ？

そういうのを見たくもないから俺達は必死で守るんだ。

周りを見てみるよ…翔太には前にも後ろにも仲間がいるじゃねえか
…。

決める…みんなで決めてやろうぜ…完全試合を…！

「おい、打てよー」こんなチーム相手に完全試合なんて冗談じゃねえぞ

南大中のベンチでは仲間割れがおきている。

気がつけばスコアは〇で埋まっていた。

そして…夢はまだ続けていた。

笑い声が応援に変わる頃、残る打者はあと三人になっていた。この回を守れば一対〇で勝利…完全試合である。

最後の守りに入る時、すでに翔太は限界だった。

なんでだよ…

あんなにボロボロなのに

手足が震えてるのに

なんで…そんなに嬉しそうな顔なんだよーー！

ヒラーなんか許されない。

『最終回だ！…しまつて行くぞーーー』

自ら望んだ夢や希望を
自らおかしいと笑う奴らよ…！

翔太を見ていてくれ！

なんか心が熱くないか？

それがみんなのウイニングボールなんだ。

赤いメガホンが宙に舞う頃には……誰も彼を笑えなくなっていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6675a/>

パーフェクト・ゲーム

2010年12月5日11時12分発行